

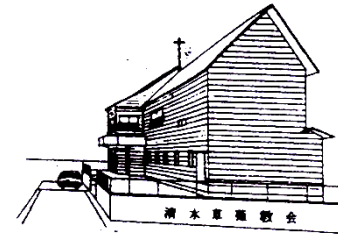
《今朝の聖書から》

村上 真理子

今日開かれました聖書箇所は、村上牧師が毎週目安にしている聖書日課表に基づいています。さて、その聖書箇所をみてみましょう。ここでは役人とイエス様の会話がメインです。各地でしるしを行われた主のもとに、息子の命を助けてほしいと願う役人がやってきます。この人に主は「しるしと不思議とを見ない限りあなた方は信じない」とおっしゃりつつも、癒してくださいました。さてこのイエス様のお言葉、ずいぶん冷たく聞こえるでしょうか。どうでしょうか。私たちは時に、誰かに何かを頼むとき、その根拠を忘れてしまうことがあります。ですからおそらく主も「あなたは、何故私にそのような力があるとおもうのか？私にすがる根拠は何か？私は何を願ってこのようなしるしを行っているのか？このしるしは何を意味するか？」という問いを、この役人の魂に投げかけられたのではないかと思うのです。役人は、初めはただただ息子を癒してほしいだけでした。しかし主に、「あなたはしるしと不思議を見なければ信じない」といわれたとき、何かの備えができたのではないのでしょうか。もし、このように問われず、即座に主が癒して下さったら、自分が主のお力に期待したその根拠など考えてもみなかったのではないのでしょうか。先週は、希望や期待を失い、惰性の中に生きていた病人が主に「治りたいのか」と尋ねられ、本来の目的を見出した箇所から主の御心を学びました。今、主を信じる私たちもまた、順調なときもそうでないときも常に主に「あなたはどうでありたいのか」と、前向きな人生を生きるために問うていただいているものであり、また「こうでありたい」と願い出ることのできる者なのです。この役人が主に自分の状況を願いでる姿勢は、先週の病人よりは前向きにみえるのでしょうか。けれども、この役人とイエス様の出来事を通してまた私たちは別の角度から御心を示されます。私たちは主に願うことがしばしばです。けれどもその願い出る根拠をときどき忘れてしまいます。役人は、主に息子を癒してもらうことで何を得たかといえ、聖書に記されているのは「家族円満」でもなければ「ラッキーな人」でもなく「信仰者になった」ということです。私たちが今、クリスチャンとしてこの世に生かされ、主に願い求めつつ生きている、その根拠を確認しましょう。

週報

2008年 6月 22日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会の会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸